編　集　後　記

当文化財センターのホームページも徐々に周知され，今年度は９月末の段階ですでに40,000件を突破している。コーナー別リクエスト件数を見ると，トップページを除いては「これまでの主な成果」，「お知らせコーナー」，「発掘調査速報」に集中している。

「これまでの主な成果」は，県内を８地区に分けて代表的な遺跡を照会しているもので，発掘調査速報とともに埋蔵文化財に対する関心度の高さが窺える。

昨年度も196遺跡の発掘調査を実施し，注目される遺跡も多かった。いくつかの遺跡については，広報紙やホームページで速報としてそのつど紹介している。今年３月に記者発表した酒々井町飯積原山遺跡から出土した人面ヘラ描き土製支脚などもその一つである。平成13年度の調査中に，9世紀前半の住居跡から横倒しの状態で発見された。ヘラ状の工具で頭，眉毛，鼻，口を描き，炎にあたっていることから竈で実際に使用されたものと推定されている。人面墨書土器の出土例はあるが，土製支脚に何らかの意匠を描くのは全国的にも希有である。

また，保存と活用を図る必要性の高い重要遺跡の調査として平成９年度から実施している嶋戸東遺跡も大きな成果をあげている。同遺跡は，上総国武射郡衙推定地といわれている遺跡で，これまでに２時期の変遷が明らかになっている。前期では政庁にあたる建物群，後期では政庁と思われる掘建柱建物と正倉群が見つかっているが，第５次調査では郡庁に伴う巨大な柱を使用した倉庫群とともに，範囲がさらに南に延びることが判明した。今年度も第６次調査が予定され，調査成果が待たれるところである。

限られた調査期間のなかで，調査成果を迅速に報告することは当然の責務であるが，種々の条件により長期間を要する遺跡も数少なくない。ましてや，記者発表に至る遺跡を担当する機会も多くはない。

本号では，昨年現地説明会や広報紙を通じて公開した鹿島台遺跡の速報と印旛沼地域における既調査遺跡の遺物再考の２編を掲載した。鹿島台遺跡は，弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡で，注目されている遺跡である。一方後者は，調査成果から見落とされがちな少数資料の論考である。発表の経緯は異なるが，研究資料の蓄積という意味からは大きな意義を持つものであり，この機会を通じて資料収集や新たな知見の一助となれば幸いである。

研究連絡誌　第63号

平成14年10月31日　発行

発　行　者　　財団法人　千葉県文化財センター
〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809－2
電話　(043) 422－8811
URL／www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

印　刷　所　　株式会社　正　　文　　社
〒260－0001　千葉県千葉市中央区都町1－10－6
電話　(043) 233－2235